日-反原発10月行動月間-

表白文

ビラについて

〈J22・対関電交渉要領〉並びに補遺 〈泰山鳴動ラット作戦記〉

北陸電力退散祈願念仏行動 七尾火力発電所建設阻止

悲な縣は再変更き抗ら遂に しく 警は三き、 これに を変き金で歳ぎ死に歳ら 哀な・ 京を途で風いく。 ・ の初いの 鳥。 保は闇な松。衆で月で ないに 節で間を 日 n 征ぎだ会。 て果さず 湾埋立むとして 迷う

不信積悪 と雖 ŧ, 果がなし

今皇何を四と百を玆に願ないららられる。 中を海の千葉には、定免をはる。 り・平で億まるなくの。 は、七後安次万夫仏では、難だらの不 縁を不する。 願がりま心と 力》待是一 を以れば 向言 = * 7 品度

0 懺さ 悔 t

て弥陀だ

に帰り 命

諸行 らも ___ 切を取止めさせ給 ^

78



於 敦賀もんじゅ退散念仏行動で、仲間たちと一

ただただ、、ただ、ただ、、ただただ、、ただただ、、、

、信心飲喜させ給へ 、信心飲喜させ給へ 、信心飲喜させ給へ 、信心飲喜させ給へ 、信心飲喜させ給へ して有し給。 ・ に 類み参らせて

あなかしこ

原子力はごめん だ '79.10月行動 た '79.10

※ 10月行動でまいた「ミニビラ」の表紙と1ページ

毎日新聞)

知らない人が見るとビックリするからの灰が朝鮮半島にまでひろがるとか、三兆何干億円もの被害がでるとか、死および公衆損害に関する試算』報告は

「*大型原子炉の事故の理論的可能性

グ公表しないワケー

とても公開できません。」

74 · 11

一日 — 反原発10月行動月間

眼 ピンでとめてある。 の前に 10月10日、 コスモス原稿締切日』 けれどまだ一行も手をつけて とか 13 たメモ紙が、 な :

会 度廃止と獄中弾圧問題を中 ム形式、 の大間君がくる。 0時10分。 ネラ 依頼者6人をきめる。 「こんなに遅う来てす 来年 心に据えた集会をやる相談。 月二四日、 大逆事件記念日に、 んません 働 シンポジウ < 死刑 仲間 制 0

感じや」というと、 に笑った。 ったまま 「きみのニッ それが移って、 クネ 律気に、 ム、 彼が帰ったあともぼくの ドカベン、 「ハイ」といってから、 いうんや てなあ。 口が何となく笑 はずかしそう そつ n

しきりにどしんどしんと、用紙をさばく音。印

隣りの部屋では、

にくる。 1 時。 ふう子さんが、刷り上ったウリニュースを一枚、 みせ

印刷機の音がやむと、まわり一面から虫の声。 「もう明日や。気分転換に、この〈ミニビラ〉(※注) 「おいちゃんのパンフ版下終ったん?」 「版下がもうちょっと、 「10月行動実行委ニュースは?」 これから刷るとこや」 折ってんね

さん、 ウリニュースの、 3時20分。「あー、 いなくなる。 折りと挿み込みは終了。 眠むとなってきた。 おやすみ」と、 ふう子 h

ぼく。 隣室で、のぞみ君が、 「おーいもう明日にして、 また印刷機をまわし出した音。 ねよか。ぼく、 郵便出してくるわ」と

の窓に、 石崖の上で、楠の木の梢の真上の夜空をみるのはいい気分。 3時4分。ポストまで手紙を入れにいく。タバコを吸いながら まだ明りがついている。 印刷室

モスの原稿、 まだ一行もかいていない。 寝床に原稿紙をひろげて、気がつくとねていた。 コス

ので、 〈何が何でも原発に反対する女たちのグループ〉がやる〈秋祭り〉 9時5分。「ワァーねすぎた」とふう子さんがばたばたしてる 目がさめた。

85

用展示パネルつくりで〈共同小屋つゆくさ〉へ、とんでいく。

10時20分。 オカモッちゃんから電話。

もう三人も来て待ってんねんけど」 「ふう子さんは?。 共同小屋のカギ、 違てるのか開かへんねん。

アーピンで、 「ふう子さん、そっち行くのに、 ××して、××してみたら…」 もう20分位かかるやろ。

5分ほどして、また電話。

「うまいこと開いたわァ」

のぞみ君、もぞもぞ起きてきて、

p んの、あんな声きいたことあれへん」とひやかす。 「ほう、よかったね、という声がほんまにやさしかった。 〈ミニビラ〉折り開始、まだのこり五万枚ほど!! おいち

Ł, 11時50分。「おひるまだやろおもて、栗ごはんもってきたんよ」 のり子さん来る。

こからのぞみくん。 「うわあ、ぼく一ぺん、 腹いっぱいたべてみたかってん」と、

「ええ味やな。 おかずいらんわ」

「お母ちゃんがつくってん」

「そらそうやろ」

「あら、 わたしかて、 グラタンやったら自信あるよす」。

て。 12時10分。こんだくん来る。 長机の上の 〈ミニビラ〉の束をみ

「うわあ、ようけあるなあ。これみんなやるん?」

「きみ、ひるごはんは?」

「ヘエー、たべてもかめへんの。栗ごはんなんて十年ぶりや。

クスクリ 12時30分。 よ 四色刷り。 しむらく h, 刷り上ったポス 9 1 ŧ 0 てくる。 シ

みんなよってきて、 品評会をひとしき n

あ」と、 「こんなエエ天気に、 よしむらくん、 部屋の中で仕事とは、 のぞみ君と交替して、 印刷機をまわし出す。 ホ ンマ にイ ン ガやな

13時30分。 実行委ニュース千部刷り Ŀ. n

「封筒の宛名かきできてる?

「切手もまだ貼って 、ないで」

つ (ミニビラ) 部屋がせまい。 の折りは、 ようやくる終了。 それがだんだん山にな

原発推進派うつかり本音語録 2

原発推進派うつかり本音語録 ❸

いちいち責任とれるカイ

人命や建物にも被害を与えるだろうが 「技術というのは一歩一歩完成してい それまで、あなたは生き残れるか 事故もあり、 火力

発電などと同じである。

いらへんて

言ったのに

くもの。原子力発電においても、

10月行動でまいた「ミニビラ」 2・3ページ める人間がいなくなってしまいます。 いち責任を取っていたら電力開発を進 事故 「新技術をこなしていく過程で、 電気の買

の多発は

地元に貢献

小林庄一郎関電社

78 5 9

朝日

多いから十分貢献しうる。 なくなつて地元の雇用喚起に貢献しな いと言われるが、事故や故障で修理が 「原発は、 小林庄一郎関電社長 建設が終れば労働力がいら (国民経済

何十年後には安全だということになる。

74 9 25

朝日)

丹羽周夫 前日本原子力研究所理事長

ものは言い様、ダマシ様

的に見て欠点があるだけだ。公朝日ジャ 「美浜原発は欠陥原発ではない。能力 ナル 74 . 6 . 7

計画 殺人で は い? は 子力連絡調整 技術庁敦賀原 官事務局

「検査の時の作業員

被曝は計画被曝だから、 には数えられません。 松田 泰·科学技術庁原子力安全局 原子炉規制課長 77 . 8 . 9) いわゆる被曝

福元健夫・科学

10月行動でまいた「ミニビラ」 4・7ページ

●10月反原子力月間行動をいつしよに /

今春、アメリカのスリーマイル島でおこった原発事故は、全世界に 原子力発電の恐ろしさを知らせました。原発の「安全神話」の崩壊は わが国でも各地で続発する事故で明らかとなり、 多くの人びとのな かに政府の原子力行政に対する不信がいっそうつのっています。こ 大企業への電力供給を保障するためにしゃに ようななかで政府は、 力の日」と名づけて、毎年政府・財界あげての原子力推進キャンペー 今年も、 エネルギ・ もに原子力発電所建設を強行しようとしています。私たちはこのよ うな政府の姿勢に対して、私たちの世代だけでなく子孫の生命の安 全を保障するため、10月26日を「反原発の日」として一斉に共同行 動をおこなうとともに、10月1ヵ月間を反原発月間として種々の催し を計画しました。

ぜひみなさんの参加を /

送。 同行動〉 14時30分。 のぞみ君とこんだ君が、 の案内ハガキ、 「あつ、 をつくってすぐ出さんと! 忘れ 封筒かきやめてやり出す。 てた!」 とぼく。 13 日 0 その印刷と発 〈ビラまき共

「そっちどんなん。 16時20分。共同小屋のふう子さんから電話。 封筒かきすんだ」

いや、 まだまだ」

17時40分。

ぼく、

やっ

とパンフ版下かき、

表紙題字、

小見出しを

「そしたら、 応援に二~三人、 こっちを抜け出て行こか」

のこして終了。 「ほんまにエライこっちゃ」 「いつまでたっても、 「そっちはどない 減れ 1 んわあ」

「指が痛うなってきた。交替しよ」「運動か…。あーあおなかへった」「運動いうのは、90%、こんな雑用や。」「デモでもしてる方がラクや」

をたべにいくことにきまる。 18時20分。 夕食つくりの間がなかったので、 カマへ 「沖縄そば」

「スゴイ五人もやでェ」 そこへふう子さんが帰ってきて、 「よおし、ぼくがおゴルぞ」とよしむらくん。 「あわもりかしょうちゅう付で一人五百円以内」

を折ってる。 ゆみちゃん、 19時0分。帰ってくると、部屋がにぎやかだ。るり子はん、 れいこさん、おかもっちゃんらが来ていて、ミニビラ

ぼくは、パンフの題字かいて、出来たやつから印刷へまわす。 こんだ君とふう子さんは封筒をかき出す。

人の中年のアメリカ人。 「こんばんわ」と顔をつき出しながら、部屋のにぎやかさにびっ 20時50分。リン・マイルズとふじ子さん、それから、リンの友

わらない、といった。がしばらくして、 リンの友人サンフォードは、東南アジアを廻ってきたという。 「彼は、 「みんな、ちょっと休けいしょ。誰かお茶入れてくれる…」 「彼を案内して、 カマの路上で、あちこち倒れてる人をみて、東南アとか カマの中、 歩いてきました」とリン。 日本はスラムでもはるかに

ん

くりしている。

「これ、ぶどう。途中で買うてきたの。みなさんで」とふじ子さ

当に死に瀕して倒れている。カマでは、よくみると泥酔のうえ、た 豊かで、とてもタイやヒリッピンと比べようもない、と意見を訂正 ならない」 べたものをはき出して、寝こけている。その悲惨さでは比べものに した。なぜなら、東南アジアでは、 栄養失調と、何日もの絶食で本

労使双方にとっても至極都合のよい〈労働流通市場〉 手伝って、退去。 それから、カマの歴史と現在の変遷のはなし。 しゃべりながら、 「その観察は、卒直で、 みんな〈ミニビラ〉折り。 問題の一面をついてい リン達も一時間ほど る。 でもある」 カマの存在は、

入れ開始。たくさんでやるから早い。 ▼2時50分。ようやく出来上った印刷物、 るり子はん、よしむらくん、こんだ君、 れいこさん、 四種類をならべ のり子さん て、 封筒

帰る。機械の音もとまって急に静かだ。

ンと投げる。 「郵便局で、ポンポン投げてるのん、 23時30分。 まるで輪投げのように、あちこちから…。 部屋の半分ほどは封筒の ようわかるわ」 山。のりづけした封筒をポ

五〇通。 まだ封入中。 「なに、 24 時 それ」と、 「運動て、 実行委関係二八〇通。 あゆみちゃん。 ホンマに〈事務〉 ウリ関係約五○○通、 やなあ」とのぞみくん。 その他

―コスモスの原稿、まだ一行もかいていない―

ミニビラの折、

まだ一万ほどのこってる。

階段をのぼりかけたとたん、つと、 のぼりきった処で、と、また一枚。 ビラが差し出された。

日曜日の午後四時、時計はまだ十分前を指している。

手すりにもたれて遠くをみている人たちは、 国鉄天王寺駅から、 メやカタカタ人形を箱の上にならべた大道商人で、縁日のようだ。 を待ち合わせているのだろう。 近鉄百貨店二階へと渡る通路の片側は、ゼニガ ぼくと同じように誰か

丸めたり、折りたたんだり、そのままの新しいビラが、投げこまれ 通路の降り口に、ダンボール箱が二つ置いてある。 てもり上っている。通りすぎるとき半数が、手にしたビラをさっ と棄てていく。

ときどき、風が二枚三枚と、吹きちらす。

×

ふと、足許のそれを、ぼくは拾いあげる。それから、さっきポケッ 機を思いきりなげる。それから又折り出しながら、途中で、思わ ず手がとまる。 トにつっこんだビラもとり出して、なにげなく紙ヒコーキを折る。

眼下のとたんに青信号に変った路上を、一せいにスタートする車の ぼくなのでは いま、空中へ投げられて路面へ散っていったのは、 ひょっとして、

はげしい騒音の中へ、身投げのように、ビラがひらひら落ちてい

×

思えば、この四十年間。ぼくもまた、ビラをせっせとつくって、 いてきたものだった。

仲間たちと一緒にまいたビラの数は、 う。 何百種、何百万枚になるだろ

原稿をつくり、 って、或いは送付分の宛名書きやら切手はり。 版下やガリをかき、 それから刷って、 裁断して、

そして戸別のビラ入れや、駅頭でのビラまきなど……… しかし、だが、そうしたビラの一枚一枚の、そらおそろしいほどの

刷り上るのを待ちかまえ、一せいにビラを抱えて街へとびだして 数と内容は、 ったときの、あの仲間たちの意気込み、そしておもいの数々は、 人々にどう伝わって、 一体どこへいってしまったのか。 いまどこでどうなっているのだろう。

^ ×

手渡したしゅん間から、 …とすれば、ぼくにとってビラとは何なのか。 ラの意味とは何か。 その手のなかでみるみる皺ばんでいく、 ビ

配ることと同じように、 きれとは、 一体何か。 受けとることが棄て去ることでしかない紙

そうなのだ。 の紙きれにすぎない。 もともとビラは、 文字が印刷されているだけ 0 一枚

て機能する。 ある。そしてこの三つを完全に具備することで、 ビラの「まき方」こそが、ビラを紙きれとちがわせているもので 「文字」が意味する「内容」と、その形象化の ビラはビラとし 「技術」、その

それに加えて、ビラはそのこと以上に、 それだからこそぼくは、ビラをつくりまくのだ。 そのものの提示だということだ。 何よりもぼく自身、 おのれ

だからまたぼくのビラまきは、渡したビラをぼくとして受けとめて そうなのだ。ビラはそれゆえにぼくなのだ。

くれる、 何百、何千回分の一回の出会いの相手のためにこそあっ

その一枚一枚を出会いのために、ぼくはつくってきたのだろうか。 だが、そのようにしてまくビラを、 しごくおざなりなビラの内容も内容なら、ビラのまき方も手当り次 第に配るだけではなかったのか。 そのたび毎のぼく自身として、

出会いはもともと一対一のものだとすれば、ぼくはまず「ぼく自身 相手」と出会うしかない。 完全にビラになる」ことで、「ビラをぼくとして受けとめる

そのために、ぼくは

第一―ただ一人のその相手との出会いのために、 はない。 ビラをまく。数で

第二一かざらず、 気取らず、ざっくばらんに、 自分そのままのビラ

第三―ビラをつくるのは、 きだけである。 自分のおもいでかくのではない……… 相手のおも いをぼくの おもいにできると

午後四時二〇分

X

X

ぼくの待ち人は、まだ姿をみせない。

左右の階段から、 でぶつかって、 ちらかったビラを踏んでいく。 とめどなく姿を現わしてくる人たちが、橋の真中

夜から雨、という天気予報だが、橋上の雑踏は、 してきて、一だんとにぎやかなざわめきだ。 いま薄 12 西日が射

遠く夕映のビルとビルとの間を走る高速道路の空のむこう、 煙霧で見えない。 生駒山

|泰山鳴動ラット作戦記

1

第一日(土曜)一晴。 てきた。 11月18日。 午後3時、 ンな電話がかか つ

「20日頃、泉北港から四国・ 送の阻止行動、 どないなってますか。」 伊方原発へ積出すという

「エート、どちらさん……」

「はあ、あの…KS大のもんですけど、 参加したいと……」

「そりゃそれは…」

「で、いつどこへいったらエエでしょうか」

いつものあの声だった。

×

X

そこで、 室内のみんなが、 「はあ、 それね、 阪港積出しを許可するんか、 ちょっとだけは……」 昨日冗談でしゃべった 山口県でも通過を断ったのに、 もう四日も府と交渉していること知ってはりますか。」 くの方をむ いて聞き耳たてている。 回答求めてますねん」 (作戦)が、 なんで安全審査もせず大 ぱっと出てきた。

港湾課長がまことしやかにみせた〈岸壁使用申請書〉は、苦しまぎ ひょっとしてあんたやったのでは 話すことはないと逃げ出した。その廊下でウロウロしてた私服は、 れに自分がつくった、 昨日9時すぎまで、 府庁ですったもんだの団交をくりかえした。 マッカなニセモノ。 それがバ レると、

予定通り輸送を強行するやろいう推定で、 ねってるところですねん」 今日も交渉中やけど、 アチラさん、 20日の緊急動員体制を 最後は開きなおって、

「ともかく今日の交渉結果で…」「すると…具体的には…」

「それ、いつごろ判りますか」

「あの、 「さあ、 名前、 えーと、 住所、電話きいといたら、 こちら下宿なもんやから、 知らせますけど」 電話もちょっと・・・」

「何しろ今回は急なので、大動員するということになってますけど、 るんで、 せいぜい千人たらず、それに海からボートでの阻止行動を考えて 一人でも二人でもようけ来てもらいたいんです」

「はあ、それでは…あとでまた電話させてもろて…」 ここはウリの事務所ですねん。 戦術決定は、 別のところで

やりまっさかい…」

×

困

[ったナ…イヤそれやったら、

また改めて…」

電話がきれると、みんなが一せいにしゃべりだした。

「千人の動員! 海からの トも出すやて…ゴツイ話や」

「ホンマにしよるやろか」

「いざとなったら20人、ムズカシイのに…」

2

第二日(日曜)—晴。 って、 空っぽの事務所。 11月19日。 壁に大きく貼った 午前11時、 〈連絡〉 みんな出かけてしま が目立つ。

―午後班へ―

B班に次のことを伝達します。 二千枚の標識貼付のため出動中。で、 に〈危険!ここは核燃料が通ります〉

① 明日早朝、予想される〈核燃料輸送

105

に展開するものと思われます。に対して、警察は未曽有の大警戒陣を陸海

警察側の大動員を傍証している。) 警察側の大動員を傍証している。) 警察側の大動員を傍証している。) といる様動隊が不当な弾圧をする場合、テレビカメラは証人として役立つ。テレビ車周辺で行動してもらうとよい―という読売のとでがある場合、テレビディレクターの電話による申入れは、当方の阻止行動を大規模なものと想定した。

「早朝からのただ事でない気配や、警察の視されることを逆手にとって、

びついて、問題提起する―ことにあります。のごくあたりまえな不安・危惧の感情と結大出動は、一体何やろう」という沿道住民

そのやり方として、

(A) 今夜は全員が『電話ゲリラ』作戦! (A) 今夜は全員が『電話ゲリラ』作戦!

夫でしょうか。

隣の奥さんは、

子供の登校

例

一)「明朝、

泉北港から積

出すための

学校の側を通るときいたが大丈

ますか。その対策は…」側としては通過時の通報など受けておられを午前中見合わせると言っています。学校

(例2) 「警察が核燃料輸送で大変な警戒をしてるとききました。そんな危険物が学をしてるとききました。そんな危険物が学

電話で報告。20日午後配布ビラのキメ手とから20日早朝にかけての現地状況を刻々、内へは釣人となって潜入します。19日夜半つづき現地にのこり、沿道要所および、港圏 〈物見観測班〉は、A班の一部がひき

総括会用おかず調達という一石二魚?)なる「情報」をとります。(ついでに夜の

前集合!!〈とどめの総攻撃、ビラ作戦〉

で

11月20日(月)正午。全員、泉大津駅

人口四万の町をうずめつくすのだ。

地、 て、 より25分。 した紡績工場が、 口四万三千。 ☆(参考)いずみおおつ・南海ナンバ の音をひびかせている町。 染色、 大津川三角州上大阪湾にのぞむ。人 さらしなどの特産地。 大阪と和歌山との中間にあっ 綿毛布、 路地路地で古風な機械 メリヤス、らしゃ 斜陽化 駅

〈観測班よりの電話報告〉

立入禁止」の標札がたてられた』 『午後七時。 港入口三ケ所は、 夕刻より「通行止、工事中に付、

『午後十一時、 市中、パトカーの往来しきり、 十台が沿道及び要

所を巡回の模様』

『午前零時、 第一阜頭揚屋横広場に、 機動隊カマボコ車八台が待

て、 『午前零時30分、 取材準備中』 港正面ゲート前に二社のテレビ放映車 が 陣取 0

げ、 『午前二時、港から一キロ以内の要路付近は、 塀の中、工場守衛室等、 至るところに私服がかくれ、 ポスト、 立ってい 門柱のか

『午前三時半。 沿道約10キロにわたり、二~三百メ ル間隔で

警官が配備されている』

佐野を通過』 後衛のパトカーと共に、時速二〇キロ程度の、 『午前五時40分、住友燃料工業を出たトラック隊四輌は、 のろのろ運転で、泉

隻に護衛されて出港。 「午前七時、 積込み完了。 紀淡海峡方面へ』 七時半、 出動した海上保安庁巡視艇九

消したように町中から消えてしまっていない。 『午前八時、 港をうめつくしていた警官など、 まるで黒板ふきで

大津駅集合。 第三日(月曜 -快晴、 やや寒し。 11月20日一正午、 南海電鉄泉

20人あまりのぼくら。 いま、駅を走り出す電車の大轟音。 高架駅の階段を降りてくる、

国道左右の町並へ分け入っていく。 ぼくらはまるでピクニックの恋人同士のように笑いさざめいて、 駅前交番はからっぽ。 (昨夜の徹夜で、みんな寝てるのかも)

みんな小脇にビラを、はさんで。

口って…トか。 - ☆ ビラA(シュプレヒコール風に)

知ってますか。

きょう11月20日未明。

トラック四台に載った核燃料が

泉北港から、四国伊方原子力発電所へ向けて、

港までの沿道10キ

警官約二千名。 港までの沿道10キロの警戒に出動した、

でもまあ、今回は何もなくてよかったなァ。でもまあ、今回は何もなくてよかったなァ。というのに、というのに、というのに、というのに、というのに、というのに、というのに、というのに、おられどすばかり。もとうさん、おかあさん。おとうさん、おかあさん。

☆ ビラB (演説風に)

もちろん熊取町からの沿道は、猫の子一匹に前後左右をまもられて、核燃料をつんだトラックの一団が、この町を走りすぎ、成・まだうすぐらい6時ごろ、パトカー

止。 港への立入りは昨夜から泉大津大橋で通行

みのがさぬ厳戒体制。

送を警戒しなければならなかったか。も出ているというものものしさ。も出ているというものものしさ。

関係者はだれ ある情報では も運ば でゴマ 府は、 とを強く要請したい。 ニセの て真相を追求し、 かそうとしたのだ 泉大津市議会が、 たの で百万人を殺す to I 書類までつく ではないか 核燃料〉 をつぐんで答えない。 に加えて、 明らかにするこ (プルトニウム) کی これらの事実 それゆえ大阪 って、最後ま 耳か

学校がいくつもあります。 熊取から助松阜頭までの沿道には、小・中 ――― ☆ ビラC(大ぜいで口々に) ――

らよいのやら。上なんてことが起ったとき、どないしたもし万一、核燃料輸送トラックの衡突・炎

巡視艇が出動するのですか。なぜ、一企業の貨物に、パトカーや警官やをさけて秘密裡に、輸送するのですか。「絶対安全」というなら、なぜ早朝、人目

大阪府・警察・消防署は、これに答えて下

されているとは、最適に下っている。安全なら安全だとPRし、輸送時日を公表

下さい。 周辺五キロ以内の道路は、使用しないで子供たちの安全な環境を守るために、学校

まず横丁にまがって、八百屋の主人とビラをくばる。 × × ×

それを見送ってぼくは佇立する。 女の子の手にひるがえりながら、 通りすぎる女の子に「お母さんによんでもろてね」と一枚。 まず横丁にまがって、 八百屋の主人とお客に一枚。 遠く小さくビラが走っていく。

ゆっくり呼吸を停める。

やおら巻きおこってきた一陣の風。

てのひらをかざす、満身の息をふうっと一吹き。印呪をむすぶと、たちまちぼくは孫悟空だ。

一しゅん皆天を뿒して、い各いとたんに、ぼくの分身三千人。

ビラが走っていき、呼びとめる。いま、いっせいにうごき出し、小路へはいっていくビラ。一しゅん宙天を飛んで、小路小路に降り立つのだ。

できた。 できから現れたビラが、表通りに出てくる。 家毎から現れたビラが、表通りに出てくる。 家毎から現れたビラが、表通りに出てくる。 ですが教育会議に出席し、市議会で質問に立つ。 ではしはじめる、ビラの隊列。 「核燃料車は、この町を通るな!」 「住友燃料工場は、熊取町から出ていけ」 一せいになり出すサイレンのように、 いま、町中をゆるがそうとしている声。

〈J22・対関電交渉要録〉並びに補遣

● 一月二二日午前10時50分

関西電力和歌山営業所・入口玄関前

男女・子供あわせて17人

男C「四月分電気代の水ましサギしたんは、誰やァ」女B「紀州のきれいな空と海を汚すんは、誰やァ」みんな―関西電力やァーシュプレヒコール シュプレヒコール

男 E 女 F みんな 男G 「関西電力は、 みんなーとりさげろー、とりさげろ、 みんな―だまされへんでェー みんなー 女D「サギでとりこんだ10億円、 みんな―関西電力やァ 「関西電力は日高 「関西電力の、 関西電力やアー かーえーせー、 電気代10億円水ましサギィ 水ましサギの電気代を一」 の原発計画を一 かーえーせー、 戻さんのは、 とりさげろー かえせエー 誰やア」

するという大歓迎陣は、手をつかねて、 手駐車場に駐ったカマボコ車 身を固めた社員約五○名が横に展開、 玄関扉前は、 機帽のボス指揮下 一台のなかに機動隊数十名が待機 の私服約二〇名と、 対峙 眼前の異様な仮面行列 している。 作業服に さらに横

左右にわかれて手をつなぎ、或は輪になって踊りがはじまる。 のプラカード集団を見守るばかり。 ٤ 子供の遊戯よろ

■ 掛け合い歌(モシモシカメヨのふしで)■ 1 → 女5人で

水まし計算 サギ料金

一軒当りは、知れた金○一男2人で

③ 女ばかり10人で *** ないない はいない はいない はいない はいない はいない はいない がまえろい ないない かまえる はいない はいない はらんぞ できかし いいぬけ 通らんぞ 水まし計算 やり直し おまし計算 やり直し おまし計算 やめるまで かまし計算 やめるまで かまし計算 やめるまで

2

関西電力

許さんぞ

関西電力和歌山営業所応接室

関電側―営業課長・料金課長及び係員3人が着席。 そのうしろに

こちら側―交渉係K・Y 他に新聞記者2人 10人位が立っている。 · M 三人、 玄関前との連絡係日の計4人、

Kーあのー、この前の四月、電気代値上げのときにね。日割計算で 四月分電気代を徴収してますね。それは認めはりますねぇ。 〈日割計算〉というのは、メーター検針をやらずに、三月も四

M 月も電気の使用量を同じとする、推定計算のことでっしゃろ。 -それね、三月に比べて四月は、日も長くなる。コタツもいらん ということで電気の使用量が減るとみるのが常識でしょ。

K―それを三月も四月も同じにした平均使用量とするのは、ちょっ とおかしいんとちがいますか。

M た四月分の使用量を値上げ料金でとってる、 オカシイなんてもんやあらへんで。つまり日割計算で水ましし いうことやんか。

K Y M 水ましサギのドロボーやァ」 (一しょに、シュプレヒコール風に) 「それを承知の関電は、

K Y M -そこで前以て、先日送っておいたあの申入書は読んでくれはり 「水ましサギで関電が、ゴッポリか せいだ10億円!

ましたやろ。

しをすることとし、 日割り計算を適用した四月分電気代は、 右を公告すること。 その申出者に対しては無条件で修正に応じ 全面的に計算の見直

ないことを証明すること。 それが出来ぬなら、 割り計算を適用計算しても、 左記資料を提示して、四月分電気代が、 資料は次の三つである。 不当な水まし利得を含むもので

③ 80年4月分の一般家庭向売電の総量。

分が3月分と同量あるいは以上であるとき、 右と比較するため、 同三月分、同五月分。 水ましはないも (つまり、 **4**月

のと推定できる

(C) 績表。 り4月30日までの間の家庭向売電量の、日別、推移動向、 右資料の正確さを補足するためのものとして、 3月1日よ 実

M はらす工工機会でっせェ。 やってへんというこっちゃ。さあ、 ―その資料で三月と四月の売電量が同じやったら、水ましサギを 以上の回答を〈消費者保護基本法〉にもとづいて要求する。 関電さんも、 市民のギモンを

K―だまってては判りまへん。払い戻しはせえへん。 条の二でも、答えなアカンと書いてあるで。 してへん云うのやったら、資料出して下さい。 消費者基本法第四 水まし 請求も

Y-資料、なんで出せまへんの。

M―そら出したら都合わるいから、やろ。

出しとうても出されへん。水ましサギをしとるから、やな。

- いう態度や、 資料で水ましがはっきりバレるより、だんまりでゴマカシとこ、 と理解してよろしいか。
- M へんのや。 わたしら、 黙ってんと、何なりと云いなはれ。 わけもなしに、サギやドロボーや云うつもりはあら
- K 資料どうしても出さんのは、関電が水ましサギをやってるから それを認めるからやと判断しまっせ。
- Y ほんまによろしいか。 大声で、 関電はサギ師やドロボーやと云いまっせ。 よろしい か。
- ぱっとひろげる。 とその横の次長、さっきから膝の上で丸めていたポスターを、 ▼一言も発せず坐っていた営業課長、 マジックの下手くそな文字。 とつぜんすくっと立上る。
- M < エ 、 にかたくお約束した20分間がすぎました。どうぞお帰り下さ だんまりの次は筆談だっか。 お茶も出えへ んか つたさ

かい、それ、 みやげにもろときまし

▼三人一せいに立上り、 大声でー

K MYK (三人で) ―電気料金払ろたれへんぞォ 「関電の、電気代水まし、 10億円サギを知っ てるかア」

Y てるかア」 「値上げした関電が、半期決算で、 ナント千億円モウケたの 0

K「関電が、日高に原発たてようとしてるの、 みんな―電気料金、 ▼MYKに玄関前も呼応して 払ろたれへんぞオー

知ってるかァ」

みんな―電気料金払ろたれへんぞォー

みんな―関西電力は、 んな一関西電力は、 ぐ払い戻せェ ▼玄関前に全員がそろって 日高の原発計 とり込んだ水ましサギの電気代、 画を取り下げろォー 10億円をす

3 帰路

「この冬のひろい空に、ビラを一枚、ひらひらとばしたような気持 「立てた作戦どおり、 「そうや、 「済んでしもたら、アホみたいやナァ」 あいつらグウの音の出しよらへんかったんやけどなァ」 言うだけのことは、 すっきりやれたんやけどなァ」 はっきり言うたんやけどなァ」

「そのビラ、どこへ落ちるんやろ」やなァ」

「ビラは一枚だけやないで。街でまいたんが二千枚。 は殖えるんやで」 ス和歌山が写真入りで記事にする、 いうてたから、 二~三万枚に 朝日とニュー

「うん、そやけど、 なんぼとばしても、 道端や屋根の上や、 どぶ川

なア」 にひっそり落ちてしもて、どれだけ人の手にわたったやろか、

「それは、 「考えたら、 はじめからよう判ってるねん。課長ぐらいなんぼギュー ほんまに頼りないこっちゃなあ」

ギューやっつけても、 ぜい自分の気安めや」 関電は痛くもカユくもあれへんやろ。せい

「云うたら頼りないこっちゃなあ」 「それやから、 なさんみて下さい、いうのがこっちの狙いなんやけどなァ」 ハレンチにさわぎたてて、新聞種にして、 市民のみ

「そうや、やっぱしやらんとなあ」 やっぱしビラ一枚のひらひらでも飛ばさな、 なあ」

「それしか、ほかにないしなあ」

「ああ、さむう」

「さむいなあ、またうたでもうたおか」

● (替え歌 でんでんムシムシのふしで)

ことしのもうけが 二千億メチャクチャ値上げで取込んだへ関電ムシムシ 市民無視

で、関電ムシムシ 危険無視での灰つくってたれ流しそしらぬ顔の 事故かくして関電ムシムシ 世論無視日高に原発たてるぞと

末尾に付す 秋山 清あとがき的小詩論 向井 孝